

freehand / PIXTA

# お釈迦さまの「さとり」に思いを馳せ

## 成道会

12月8日は、お釈迦さまの「成道(さとりを開いた)の日」とされ、宗派を問わず多くの寺院でそれを祝う「成道会」が営まれます。「成道」はいわば、現代に続く仏教の始まり。お釈迦さまがさとりに至るまでの道のりは一体どのようなものだったのでしょうか。

### 両極端の生活に苦しむ

お釈迦さまの本名は「ゴータマ・シッダールタ」。紀元前5〜6世紀ごろ、現在のインドとネパールの国境付近に栄えたカピラ国を治める釈迦族の王子として生まれました。お釈迦さまという呼び名も、この釈迦

族の出身者であることに由来するものです。さて、王子として育てられたシッダールタは、何不自由なく誰もがうらむような優雅な生活を送っていました。19歳で結婚して息子を授かり、一見、順風満帆に見えたシッダールタの人生でしたが、どれだけ裕福であっても「老い」「病気」「死」という人間には避けて通れない事実があることに思い悩んでいました。ある時、そのような様子を心配した父親に促されて城から外出しようとしたシッダールタは、城の東門で老人を、南門で病人を、西門で死人の姿を目の当たりにしてショックを受け、引き返してしまいます。そして北門から出ようとしたとき、老・病・死から解放たれるため、世俗を離れ修行をしている出家者の姿を

見、自分の進むべき道を見出しました。シッダールタ29歳の時とされます。城を飛び出したシッダールタはまず精神集中の修行をするため、二人の仙人のもとで修行に励み成果を得ますが、納得できる答えは見つからず、その元を去り、「苦行林」という林の中に身を投じます。そこでシッダールタは、とても厳しい修行(苦行)を行いました。その一つに、食欲をなくすために、食事としての穀物を極限まで切り詰める断穀があり、6年間の間、一日にひと粒の麻と麦しか口にできなかったとの伝承もあります。シッダールタの体はやせ細り、骨と皮だけになってしまいました。それだけの厳しい苦行をしても欲望を完全に断ち切ることはできませんでした。

瞑想の末に成道に至る 自身の求めるものを得られないと考えたシッダールタは苦行をやめ、近くの川で身を清めました。衰弱し、今にも力尽きそうになっていたシッダールタでしたが、通りかかった村の娘スジャータから乳粥(牛乳のおかゆ)を施され、なんとか気力を回復します。決意を新たにシッダールタは苦行林から少し離れた一本の木の下で座禅を組み、深い瞑想に入ります。途中、さまざまな葛藤や

悩みをさいなまれるもそれを跳ね除け、12月8日の明け方、暁の明星が光輝くとき、ついに老・病・死などに私たちが苦しむ理由、それから解放される方法に気がついたのです。この時、シッダールタは35歳になっていました。

若い人もいつかは老い、健康な人も時に病気になる、生きていけばいつかは死ぬ。このように物事は常に移り変わり続けているにも関わらず、それに気がつかないで「若さ」「健康」「生」だけに執着してしまうことが苦しみを生んでしまう。これを「無明」と呼び、それに気づいて執着を断ち切ることで苦しみから解放されるとしたのです。こうして人の苦しみのもとという真理に気づき、無

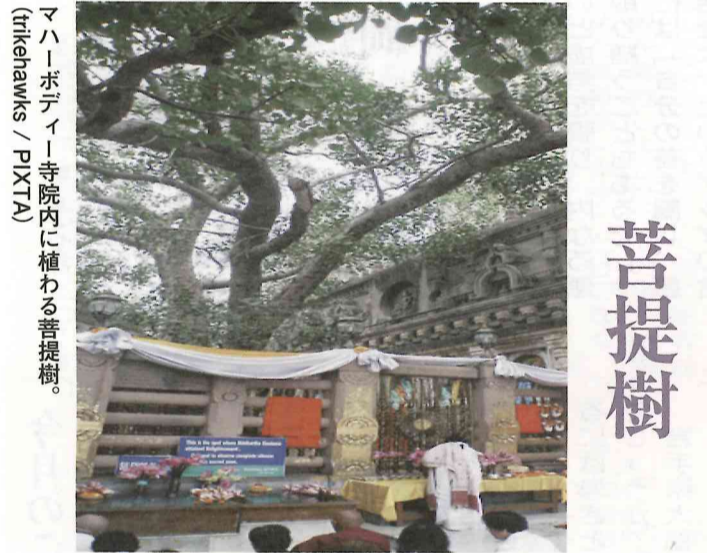
明に惑わされなくなった状態が「さとり」とされ、以降シッダールタは「ブツダ」(真理に)目覚めた人という意味と呼ばれるようになった。お釈迦さまは「さとり」を開かれてから80歳でこの世を去られるまでの半世紀近く、体得した真理を悩み苦しむ人々それぞれにあわせて説かれ、生涯に説かれた教えは、「八万四千」ともいわれる膨大な数になりました。その教えである「仏教」はお釈迦さまがこの世を去った後も弟子たちによって口伝えされ、さらに時代を経る中で文字に記されてまとめられ、私たちの知る「お

経」となっていました。お釈迦さまの教えは国境や時代をこえて伝わり、「さとり」から2500年が過ぎた現代においても悩み苦しむ人に道を示しています。私たちがお釈迦さまの教えに触れることができるのは、その教えを信奉する多くの人々の努力があったこととほちろんですが、お釈迦さまが体得された「さとり」なくしては存在しえません。成道会は、お釈迦さまがさとりを開き、ブツダとなったことに対する喜びを表す法要であると同時に、私たちがその教えに触れることができることへの感謝を示す機会ともいえます。成道会の時期には、お釈迦さまの偉業に思いを寄せてください。

### 菩提樹

さとり智慧を表す樹

お釈迦さまはピッパラという樹の下で瞑想を行い、さとりを開いたとされています。後に、この樹木は菩提樹と呼ばれるようになります。菩提とは「世俗の迷いを離れ、煩惱を絶って得られたさとり智慧」を意味しています。日本にも「菩提樹」はありますが実は違う樹木。インドの菩提樹はクワ科、日本の菩提樹はシナノキ科で、葉形が似ていることから同じ名称で呼ばれているそうです。お釈迦さま当時の菩提樹は、5世紀ごろの仏教弾圧によって切られてしまいました。しかし、挿木による子孫がスリランカの寺院に保存されていたため、それが再び植えられたとされています。現在の菩提樹(写真)は、お釈迦さまの時代から数えて4代目といわれ、今も多くの仏教徒がこの樹を訪れています。



マハーボーディー寺院内に植わる菩提樹。(trikehaws / PIXTA)

**お釈迦さまの見方があなたの味方に！ 悩みによく効く！お釈迦さまの処方箋**

浄土宗新聞で好評をいただいた連載「お釈迦さまの処方箋」を10本の書下ろしを加えて単行本化しました！  
多くの仏教書を執筆した著者が、SNS、結婚、子育てなど、現代の悩みを「お釈迦さまだったらこう答えるはず」と執筆した30本のエッセイ集。

著・平岡聡(京都文教大学教授) 550円(税込) 新書判・160頁

お求めは、浄土宗出版ホームページからが便利です。アクセスは「浄土宗出版」で検索！  
問合せ・電話注文は……03-3436-3700 ※各商品の発送の場合は、別途送料がかかります。

